

アンサンブル・ダッフオディル

大阪教育大学の学生8名により1996年に結成。メンバーは学部生から院生、卒業生に渡り、アンサンブル活動だけでなく、ソリストとして広く活躍する者もいる。現在は寺尾正の指導のもとに活動。2008年より、女声での活動に加え、混声での活動も行っている。

これまでに9度のリサイタルのほか、日中韓 愛と友好の芸術祭や京都文化博物館でのレクチャーコンサート等に出演。2006年には沖縄県での公共ホール活性化アウトリーチ事業にも参加。

また、宝塚国際室内合唱コンクールではたびたび入賞。その他、施設や小学校等でのボランティア活動も行っている。



浦田 恵子 (ソプラノ)

大阪教育大学教育学部教養学科芸術専攻音楽コース卒業。京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了。第22回宝塚ベガ音楽コンクール声楽部門第2位。第61回全日本学生音楽コンクール大阪大会大学・一般の部第1位。第8回泉の森フレッシュコンサートにオーディションを経て出演。また、その選抜者によるジョイントリサイタルに出演。2009年4月には、京都文化博物館にて開催された『歴史と共に<音楽>を楽しむ音楽会シリーズ/19世紀の巨匠 ブラームス』に出演。これまでに、オペラでは、ベッリーニ作曲『カプレーティ家とモンテッキ家』のジュリエッタ、マスカーニ作曲『友人フリッツ』のスーゼルを演じる。また、モーツァルト作曲『レクイエム』、ブルックナー作曲『ミサ曲 へ短調』、プーランク作曲『グローリア』、シューベルト作曲『ミサ曲 ト長調』、メンデルスゾーン作曲『エアリア』、ベートーヴェン作曲『交響曲第9番』などにおいて、ソリストを務める。Ensemble Daffodil 団員。これまでに、中野順子、玉井裕子、三井ツヤ子の各氏に師事。



溝渕 悠理 (メゾソプラノ)

大阪大学文学部卒業。京都市立芸術大学音楽学部を経て、同大学院修士課程修了。大学院賞を受賞。2009年よりウィーン音楽大学リート・オラトリオ科に在学中。よんでん文化振興財団、野村財団、ロームミュージックファンデーション奨学生。アーノルト・シェンベルク合唱団団員。第60回全日本学生音楽コンクール大阪大会第2位、第13回日本モーツァルト音楽コンクール第3位、第23回摂津音楽祭大阪21世紀協会賞を受賞。第17回国際ブラームスコンクールファイナリスト。モーツァルト《レクイエム》、ベートーヴェン《第九》、マーラー《復活》等でソリストを務め、大阪フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団等と共演。これまでに宍戸律子、三井ツヤ子、Charles Spencer, Hilde Zadek, Maksimilijan Cencic, Ljerka Cencicの各氏に師事。



藤村 匡人 (バリトン)

大阪音楽大学音楽学部声楽学科卒業。大阪音楽大学大学院修士課程オペラ研究室およびカールスルーエ音楽大学大学院演奏家養成過程リート専攻修了。平成元年度文化庁国内芸術家研修生。これまでに第22回なにわ芸術祭新人賞(大阪府知事賞、大阪市長賞もあわせて受賞)、第10回飯塚新人音楽コンクール第3位、第3回J.S.G.国際歌曲コンクール第3位、平成15年度坂井時忠音楽賞、平成19年兵庫県芸術奨励賞をはじめ受賞多数。'93年「兵庫県新進芸術家海外研修員」として渡欧。これまでに故土井政子、横田浩和、O.ミリャコピチ、W.モーア、白井光子、H.ヘルの各氏に師事。武庫川女子大学音楽学部講師、神戸女学院大学音楽学部(大学院「歌曲研究」担当)講師、神戸市混声合唱団団員、日本シューベルト協会会員、関西二期会会員、加古川音楽家協会会員、加古川シティオペラ・メンバー、合唱団「すばる」・声楽アンサンブル「コール・ピンネ」・神戸婦人大学コーラス部各指揮者、関西学院大学混声合唱団「エゴラド」ヴォイストレーナー。



久保田 真矢 (オルガン)

神戸女学院大学を経て、東京藝術大学、同大学院修士課程修了。1992-95フランクフルト音楽大学にて古典から現代音楽まで幅広く研究する。帰国後もオランダ、スペインなど国内外のオルガンアカデミーを訪れ、さらに研鑽を積む。2000年には、ドイツハノーファー市マルクト教会における国際見本市記念連続演奏会にソリストとして招かれる。全曲バッハによるリサイタルは絶賛された。現在は、関西を中心に日本各地でのソロ演奏のほか、オーケストラや合唱との共演、オーケストラのオルガンパート担当などの活動をしている。特に近年はプラスアンサンブルとの共演が充実している。故伊澤長俊、廣野嗣雄、E.クラップの各氏に師事。アクトシティ浜松副オルガニスト、安土文芸の郷セミナリヨ及びLICはびきのオルガン講座講師。